

1. 研究課題名：

シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全
ー北海道とロシア極東との比較



2. 研究代表者氏名及び所属：

中村太士（北海道大学大学院 農学研究院）

3. 研究実施期間：平成 24～26 年度

4. 研究の趣旨・概要

アンブレラ種と考えられ、絶滅危惧種でもあるシマフクロウ、タンチョウについては、保護増殖事業の成果もあり、個体数は緩やかな増加傾向にあるが、生息環境は著しく改変されており、現状では十分な個体数を維持することは難しい。さらに、過去の個体数減少を経験している 2 種では、遺伝的多様性の劣化に伴う絶滅の可能性が危惧されている。そこで本研究では、2 種の生息・繁殖場所、行動圏の環境、遺伝的多様性、アンブレラ種としての有効性を把握し、自然状態で個体群が維持されているロシア極東地方と比較することによって、保全策への提言を行う。さらに、社会・自然環境の将来予測を行い、自然再生適地の抽出とシナリオ分析を行う。

5. 研究項目及び実施体制

- ① タンチョウ・シマフクロウの生息環境解析
(特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ)
- ② 遺伝的多様性と近交弱勢解析
(北海道大学)
- ③ 指標種としての有効性解析
(北海道大学)
- ④ 将来シナリオと生息地保全・復元計画
(北海道大学)

6. 研究のイメージ

D-1201 シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全 —北海道とロシア極東との比較—

